

NPO 論 楽

『NPO論楽』と題したこのコーナーは、とかく難しくなりがちなNPOの論議を、

① やさしく解きほぐし ② 「論を楽しむ」コーナーです。

第3回目の今回は、女川町立女川第六小学校教頭の男澤清勝先生に、

- ①「NPOでやれること～小学生のみなさんへ～」という一文をご寄稿いただき、その内容をもとに
- ②誰もが口ずさめるNPOの歌をつくってみました。(曲を募集します)

NPOでやれること ～小学生のみなさんへ～

男澤 清勝

みなさんは、毎日の暮らしのなかで、「おかしいな、どうかならないかな」「こうすればいいのになあ」「どうして解決できないのだろう」という問題を見つけたことはありませんか。もうすでに、学校の総合的な学習の時間に、自分なりにそうした問題に取り組んだ人もいるかも知れません。

少し前まで、こうした問題を解決してくれるのは役所でした。役所はみなさんの思いや願いを聞いてくれ、税金を使って、問題を解決してくれました。みなさんをお願いすれば、そのお願いがあまりに個人的なものでないかぎり、なんとかしてくれました。一方、会社も、お金をもうけることが基本ではありますが、暮らしの手助けという面では、役所と同じようにいろいろな問題を解決してくれました。

しかし、時代は変わってきました。豊かさのなかで、一人一人の思いや願いがあまりにも多様(いろいろ)になり、役所や会社は個人個人の求めているものに仕事を合わせることがむずかしくなってきました。加えて、景気が悪いことなどから、役所の財政難(お金がない)が表面化してきました。こうしたことで、役所ができることとみなさんが要求していることに大きなずれが出てくるようになりました。

こうしたずれを認めて、お願いをするだけでなく自ら活動して社会に働き掛けようというしくみがNPOなの

です。役所や会社にはなかなかできないような仕事に、仲間と助け合いながら自分から進んで取り組むしくみ、自分たちの暮らしに必要な手助けを自分たちの力で実現していくしくみ、NPOは、新しい社会を支える大きなかぎと言われています。

さて、おそらくみなさんは大人には感じない暮らしの問題を感じているでしょう。そうした問題に多くの人と協力して挑戦し、少しでも暮らしやすい社会をつくりあげたいという気持ちのある人は、もうNPOに参加する資格のある人です。最近では、日本でも中高校生のNPO的な活動が全国的な広がりを見せていますし、アメリカやヨーロッパではNPOに就職する人も大勢います。私は、みなさんと仲間として一緒に活動できる日をとても楽しみにしています。

私たち一人一人の力や思いはわずかなものです。でも、そのわずかな力や思いが同じ目的に向かうとき、それは、大きな力と志(こころざし)となります。自分が動き出すことで社会が変わる、この実感の場がNPOなのです。

謹んで地震災害のお見舞いを申し上げます

この度の宮城県北部を震源とする地震により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早く復旧されますよう心からお祈り申し上げます。

平成 15 年 7 月 29 日

特定非営利活動法人
いしのまき NPO センター

NPOの歌

- 一. 一人の思いは小さいけどみんなそろえば大きな思い
- 二. 一人の力はわずかでも仲間がいれば大きな力
- 三. 一人が変わればみんな変わる社会も変わる世界も変わる

NPOの歌を募集します。歌詞はA4サイズを10枚以内、石巻市NPO支援オフィス内、電話 23-3364-1

いしのまきNPOセンター

育む・集う・結ぶ

むうぶ

発行
特定非営利活動法人
いしのまきNPOセンター

2003年
第3号

連絡先 〒986-0832
宮城県石巻市泉町3丁目 1-63
TEL/FAX 0225-23-3641
Eメール npo@i-port.ne.jp
ホームページアドレス
www.i-port.ne.jp/npo/



光のイベントというと、仙台定禅寺通りの光のページェントを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。冬の寒い時期に見る何万という光のきらめきはとても幻想的です。そんなページェントに負けない真夏の風物詩が石巻にもあります!!
みなさんは、北上運河沿いの松並木のライトアップをご覧になったことはありますか? 今回は、その北北上運河のライトアップを手がけている、
Canal(運河) Net(ネットワーク)チャンネル ネット ～運河とふれあう街づくりの会～の代表である太田忠雄さんに中村がお話をうかがいました。

中村: 初めに北北上運河のライトアップを始めた経緯は?
太田: きっかけは、石巻青年会議所の声かけて1市9町の若手団体、商工会議所の青年部、行政の人達と「石巻まちづくりデザイン会議」を立ち上げ、一緒にまちづくりを考えていく際、1市9町で共通していることは何だろうと考えたんですね。その時に川や運河、海、つまり「水」に接している市町村がほとんどだということから「水」にこだわったまちづくりをテーマに掲げました。そして、歴史ある北北上運河に、興味や関心を持ってもらうために、松並木をライトアップしたらどうかという提案をしました。それをきっかけに、デザイン会議の中に「ライトアップ実行委員会」ができて始まりました。そして、もっと地域のみなさんと運河について共に考えていくためには、ネットワークが必要なんじゃないかと、沿線に住む方々に呼びかけをし、ネットワークを作りながら運河を大事にしていこうということでできたのが、「チャンネルネット」です。

中村: チャンネルさんは何年くらい活動しているんですか?
太田: 10年くらい活動しています。ライトアップは今年で12回目になります。

中村: ライトアップ開催にあたり、募金活動を行っているということですが...

太田: 7月から9月末まで、各店舗や商店の皆さんにご協力を頂いて募金箱を置かせてもらっています。ライトアップにはなかなかお金がかかるもので...

中村: みなさん、ライトアップの為に協力しましょう!とところで、他にも水に関係ある活動をしているんですよね?

太田: 過去に青年会議所と合同で、地域の子供達と一緒に水質検査を行いました。また、ゴミ拾いも行っています。ゴミ問題はなかなか難しく、皇太子ご成婚記念事業として国土交通省で運河を整備したのでかなりきれいになったのですが、まだまだなくならないですね...



中村: ゴミの問題は地域に住む一人一人が気をつけないといけないですね。今年もゴミ拾いを行ったんですか?

太田: ええ、春に石巻市役所の北上川関連プロジェクトで、水に携わっている関係団体の方と一緒に石井閘門周辺を清掃しました。川開き祭りの7月27日にも朝の7時から8時まで清掃活動を行います。その他にも、岩手県と宮城県の合同活動として、北上川流域市町村連携協議会の事業の一環で岩手県の25市町村、宮城県の11市町村の水に関わる団体で北上川河口の白浜海岸を清掃しました。

中村: 川の環境整備には、上流と下流に住む人々の連携が大事ですよね!!

太田: そうですね。上流からゴミが流れれば、下流にゴミがいっぱいになってしまいますから。

中村: 一緒に川をきれいにしていきたいと思います!!その他、石井閘門周辺の歴史を広めるための活動もしているとか。

太田: 去年の5月に石井閘門が国の重要文化財に指定されて、それに合わせて「石井閘門」～閘門あれこれ～という小冊子を作成しました。

た。国土交通省東北地方整備局と地元の歴史に詳しい石垣さんにご協力を頂き、全国の可動している閘門を調査し、その方式が一目で分かるようにまとめました。

中村: その冊子はどこにあるんですか?

太田: チャンネルネットの事務局と北上川下流工事事務所に設置してあります。

中村: 是非みなさんご覧になって下さい。7月29日からのライトアップ楽しみにしています!!今日はありがとうございました。

太田: ありがとうございます。

水と石巻の中心を流れる川を大事にしているチャンネルネットのみなさん。これからもきれいな川を残していくために頑張っている活動を私たちも応援していきましょう

むうぶ 育む incubate 集う communicate 結ぶ network

move [mu:v] 動かす、(精神的に)動かす、感動させる
新しい時代の胎動をNPOがつくるという思いを込めて...

いしのまきNPOセンター通常総会報告

5月31日に特定非営利活動法人いしのまきNPOセンターの通常総会が石巻市総合体育館、2階会議室で開催されました。会員の皆様多数ご参加のなか、2002年度の事業報告及び2003年度の事業計画が、承認されました。

その後、『社会変革の担い手としてのNPOの役割』と題しまして、宮城県環境生活部次長の渡辺光子氏よりご講演頂きました。その講演レポートを紹介致します。

〇講演会レポート〇

佐々木万亀男

この4月に着任された渡辺氏は神奈川県議の経験もあり、豊富な経験から貴重なお話をうかがうことが出来ました。渡辺次長は仙台市出身で東京の大学を卒業後すぐに結婚、2人の子供を育てながら、様々な社会活動に参加されました。余りに盛り沢山の内容のため、要点を幾つかに区切りまとめました。

① 生活クラブ生協

順調な結婚生活の中で「生活クラブ生協」という協同組合活動と出会い、無添加の食品や石鹸系の洗剤に興味を持ちました。ここで役員として無報酬で働いたことから、会員自らが、企画・経営していくという民主的な組織においては、お金と人の知恵・行動を集めれば望むものが手に入られるという経験しました。また、食品の安全とプラスチック容器の問題をきっかけとして、地球環境問題とゴミ問題に関心を持つようになりました。当時住んでいたのは人口330万人の横浜市です。横浜市はゴミを全部集めて巨大な焼却場で高温で燃やす混合収集・混合焼却というやり方を取っていたのですが、「横浜ゴミを考える会」を通して、横浜市に対してゴミの収集・処理システムをリサイクル型に変える提案をし、結果的には受け入れられました。

② 助け合いワーカーズ『ふれあい』

都市計画できれいに作られた港北ニュータウンには、幾つかの課題がありました。高齢者を支える仕組みがない。ハードは在るけどソフトがない等々。昔ながらの近所付き合いがない土地柄ですので、ワーカーズコレクティブ方式(仕事作りの協同組合)の「助け合いワーカーズふれあい」というのを作りました。これは、出資をして組合員になった人たち全員が経営者になり全員が働くというシステムです。このケースでは、家事・介護を仕事としました。この仕事をしている間に、福祉事務所との連携が生れ、さらに事業が拡大しつつある状態になりました。

③ 宮城県の取り組み

市民事業というのをテーマに法政大学の夜間大学院博

士課程で学んで居たときに浅野知事からお誘いがあり現職に就きました。宮城県はNPOに関しては先進地です。せんだいみやぎNPOセンターという非常に先行したNPOの為にセンターが仙台には一番最初に出来て、支援ではみやぎNPOプラザという拠点があります。また、支援策の大きいものとして、今年は公益信託という方法で基金(ファンド)を立ち上げる事にしています。3年間で7000万(県が5000万、民間から2000万)の基金をつくり、これを市民が作った運営委員会が、要望があったときに審査を行い、いくら支援するかを決めて、10年間で取り崩していきます。



④ 社会変革の担い手としてのNPOの役割

サッチャー政権にみられたような「大きな政府から小さな政府へ」の規制緩和の波の結果、自発的に市民がNPOを作り、問題を解決し、ニーズへ対応して行く、という事を始めました。その典型がアメリカ社会です。自助の国で非常に競争の激しいところですので、そこから洩れた弱者に対する対応や環境問題に対してものすごく力のあるNPOが存在します。身近に話を転ずれば、社会変革というほど大きな提案をできたかどうか分からないですが、地域がより住みやすくなって、しかも生き甲斐のある働き方を皆が手にする、というお金や競争だけではない、ゆとりある社会にするために、NPOが非常に大きな力を発揮するのだという事を最後に強調されました。

楽しく学ぼうNPO 研修会が開催されました。

地域のNPO団体さんや、市民の皆さんを対象に、下記の日程でNPOの研修会を開催致しました。これまで、支援センターやコミュニティビジネス等をテーマに開催してまいりましたが、5回をもちまして終了致しました。今後とも、より多くの方々にNPOに興味を持って頂けるような研修会を企画していきたいと思っております。

第4回研修会 3月1日(土) 午後6時半～8時半
講演テーマ:『民間助成団体から見たNPO』
講演者:トヨタ財団プログラムオフィサー 渡辺元氏

第5回研修会 3月14日(金) 午後6時半～8時半
講演テーマ:『コミュニティビジネスの可能性について』
講演者:岩手県立大学教授 山田晴義氏

シリーズ 人が支えるNPO ③

ゆみちゃんのおじゃましま〜す!

シリーズ 人が支えるNPO 第3回は
「明笑館」さんへ おじゃましま〜す!!



北上川沿いに建つ、名実ともに明るい笑顔が集う「明笑館」は、館長の佐々木勝男さんが自ら彫刻刀で掘って仕上げたとい

う、重厚な看板が目印。

明笑館と、私達を結ぶ「明笑館」レポート『スマイル』(月刊発行)は、現在通巻112号。

『スマイル』創刊号(平成6年3月発行)のおとがきには、こんな一文が...

「明笑館を建てる時、三つの事を考えました。

一つは、在宅介護を続けていく支え、
二つは、ボランティア活動の木曜会の継続と充実、
三つは、高齢化社会の仲間入りまでに時間をかけて地域とともにみんなとともに仲間作りができればいいな、と...

そんな「集まれる場所、ふれあいの場所、ボランティアさんと一緒にできる場所があればいいな」という思いからスタートして、今年で丸10年。

「明笑館」の1週間は、かなりハードなスケジュール。7日間のうち空いているのはたったの1日!! 完全にお休みなのは金曜日だけだそうです。

その中でも、今年の2月から新規活動としてスタートした「ピンポン練習会」におじゃましま〜す!



↑明笑館には立派な卓球台が2台あります

夕暮れ時の明笑館。窓の外には夕日の映える北上川が見えました。

日頃の運動不足解消と、いつまでも若さを保つ健康維持、そしてピンポンを通して

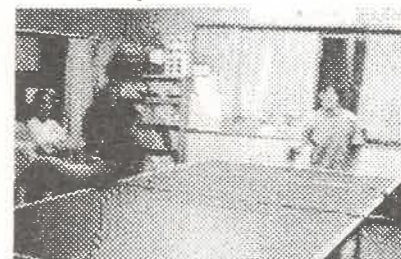
のコミュニケーション...明笑館でのピンポンは広さぎないのがいいところだそうです。その訳はピンポンにちよつと参加してすぐに納得! 体育館のような広々としたところでは、コロコロと合からこぼれる玉を拾いに行くのは、さぞかし「しやます」ことでしょう。

明笑館

所在地:石巻市不動町1-6-8
電話:94-0380
代表:佐々木勝男

- ◆健康タイム
月曜開催 健康維持と介護予防など
- ◆火曜クラブ
障害者との相互交流
- ◆ピンポン練習会
毎週水曜夜7時より卓球の練習 参加費 1回 100円
- ◆木曜会
リサイクルによるもの作り・運営資金作り
- ◆文庫「トコのどんぐり」
毎週土曜日 12時～15時
地域文庫・本の貸出・紙芝居・工作等
- ◆随時さまざまな活動をしています
石巻視覚障害者福祉協会 点字勉強会など
- ◆明笑館作品展(作品展示即売・野菜販売など)
12月 第2日曜日に開催

しかし、たかがピンポンされどピンポン! これがなかなかの運動で、すぐに息が上がってしまいました。笑顔が集い、和気あいあいとした雰囲気...しかしここで繰り広げられるピンポンは、時に千々に真剣な眼差しで白熱していました。



「いまでできること、自分ができるとの範囲内で」と第1号の『スマイル』に書かれていました。

明笑館がでてるずっと前、昭和59年に誕生したという木曜会の手作り作品では、材料は購入せずに、手元にあるチラシ紙や牛乳パックなどを再利用しているそうです。私が昼間に取材で伺った時も、近所の方が材料となるダンボール箱を届けに来られました。また、手作りの干支が隠れた人気商品となっている「明笑館作品展」は、毎年12月の第2日曜日に開催されます。

地域にしっかりと根付いている明笑館。開館から10年、活動を継続されてきたエネルギーにはひたすらに頭が下がる思いです。

次はどこへおじゃましようかな??

